

解釈バイアスが抑うつと不安に与える影響 -曖昧なシナリオ課題を用いて-

現代社会において深刻な社会的問題であるうつ病をテーマに、その発生に関わる心理学的要因について研究を行った。抑うつの中核的要因には物事をネガティブに解釈する傾向（解釈バイアス）があると言われている。その為、抑うつの解釈バイアスを測定する尺度である曖昧な状況に対するシナリオ課題（AST-D2）の日本語版を作成し、抑うつと抑うつの解釈バイアスの関連と、不安との弁別について検討した。また、解釈バイアスが抑うつ症状を予測するのか抑うつ症状として解釈バイアスが存在するのか検討する為に3か月間の縦断研究を用いて因果関係を検討した。その結果日本語版 AST-D2 は抑うつの解釈バイアスを測定する尺度として妥当であり、抑うつと不安に関連が見られた。縦断研究による因果関係の検討については、解釈バイアスが抑うつを予測していることが示された。このことから解釈バイアスが持つ長期的な悪影響が明らかとなり、解釈バイアスへの介入研究の臨床的意義が明らかとなった。